



NISSEI TOPIC

「柔道整復」記念碑建立 除幕式が行われる



京都市武道センターで、「日本の文化」である柔道整復術を未来に繋ぐことを祈念するモニュメントの「柔道整復」記念碑が建立され、令和 6 年 2 月 12 日の午前 11 時から好天に恵まれた中、関係者で除幕式が挙行された。

柔道整復師、柔道整復術の歴史は古く、大宝律令 (701 年) 医疾令 (718 年) や養老律令 (757 年) の中でも骨傷を専門とする官職のことが記載され、官中医官を務めた京都の丹波康頼が朝廷に献上した日本最古の医学書である「医心方 (984 年)」にも骨折、脱臼、打撲、創傷などの処置についても詳しく記載されている。

その後も「接骨医」「ほねつぎ医」として国民の支持を受けてきたが、明治の医制改革・西洋医学の導入により存続の危機に陥るも 1920 年「柔道整復術」として時の内務省より業として公認された。戦後 GHQ による弾圧からも先人たちの想像を絶する努力によりその危機を乗り越えてきた。

「柔道整復」のこれまでの歴史的背景から「医療」としても「文化」としても継承して

いかなければならない。

明治以来初の中央省庁の文化庁京都移転 (令和 5 年 3 月 27 日) という国家プロジェクトに合わせて旧武徳殿のある京都市武道センターに建立された。

この事業は、公益社団法人日本柔道整復師会の事業ではなく、柔道整復師有志の構想に基づくもので、「柔道整復」記念碑建立実行委員会で行われており、日整役員 (正副会長、部長)、門川大作京都市長、柔道整復研修試験財団の今別府敏雄代表理事、全国柔道整復学校協会の谷口和彦会長、日本柔道整復接骨医学会の安田秀喜会長、全国柔整鍼灸協同組合の岸野雅方会長、全国柔道整復師連合会の田中威勢夫会長をはじめ、関係者により除幕式が挙行された。

3 月 31 日まで募金を募集しております。(団体 10 万円・個人 1 万円)

募金の特典として、記念碑の隣に募金者の氏名を掲載いたします。

※個人は氏名のみ、企業・団体は企業名、団体名のみ掲載の旨、ご了承ください。

問合せは、「柔道整復」記念碑実行委員会まで

(TEL:03-3821-7162 メールアドレス: info@juseiren.jp)

2 面に続く



川口日整総務部長・徳山日整学術教育部長の進行により、森川日整副会長の開会の辞で 除幕式が始まった。



全国柔道整復学校協会の谷口和彦会長からは「我々は学生さんを養成する立場ではありませんけれど、ここに学生を連れてきて、柔道整復を後世に

残していく、つないでいくという志を持った方々になってほしいという思いも伝えてまいりたいと思っております」と祝辞をいただきました。



「柔道整復」記念碑建立実行委員長である長尾日整会長のあいさつでは、「日本で生まれて日本で育った柔道整復術を日本柔道整復師会

ではなく、全国の柔道整復師の皆さんで、このような形で未来に残していくことが、私たちの役割だと思っております。関係団体の方々、またはそれにかかわる公的機関の先生方も含めて御協力をいただきありがとうございます」と感謝を伝えた。



全国柔整鍼灸協同組合の岸野雅方会長からは「業界の中で柔道整復が一つとなって確実に未来にもずっとこの地、あるいは日本国中にこの思い

が広がっていく。そういう場所に立ち会えるということは本当に喜びでございます」と祝辞をいただきました。



門川大作京都市長からは「柔道整復術は日本が世界に誇る伝統医療であり、日本の文化であります。文化庁が移転したこの京都に、そして国

内外の方々がつながれる武道の聖地であるこの武道センターの地に建立いただいたこと、京都市長としても感謝申し上げます」と祝辞をいただきました。



このあと、関係者により除幕が行われた。



柔道整復研修試験財団の今別府敏雄代表理事からは「この場所でこういう形で記念碑が残るとするのは非常に貴重なことですし、1200

年の都ですから、今後 1000 年 1200 年後の人たちにきちんと伝わるようなことを期待しています」と祝辞をいただきました。



最後に、竹藤日整副会長から、京都市長をはじめ、建立に協力をいただいた関係各位へ御礼の言葉があった。

森川日整副会長の閉会の辞を持って除幕式は無事終了した。